

これからの行事（11月の行事）

- 3日 関西西山郷友会懇親会（尼崎）
- 5日 カノコユリ自生地保全調査
- 6日 主事連絡会（zoom）
- 7日 芋ほり
- 10日 大帯姫神社秋季大祭
- 11日 ⑮事務局会議
- 12日 ペタンク大会
- 16日 下甕地区 20歳を祝う会実行委員会
- 18日 レキバナ意見交換会 長浜地区コミ
- 23日 GG大会
- 24日 竜宮文化フェスタ

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和6年度11月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

令和6年11月7日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

この10月4日〜一ヶ月「島をアートで盛り上げるをコンセプトに甕島の中を多くの会場に分けて15名の芸術家作品発表会が開催されました。当地では西山小学校と中村臂信さんの家が会場になりました。

またKTSで取り上げられた番組に西山方々が映り放映されました。番組名は「ナマイキ」voiceでした。



甕アート開催さる右：ポスター

中：西山小学校に展示された作品の一つ

左：西山小学校に展示された作品の一つ

加し、昼休みのひと時をゴッタン演奏で楽しませて頂きました。

今回は改めて7名のチームでコミセン2階の和室での演奏会でした。

チームには2名の小学生（姉妹）が含まれていて将来が有望です。

手打からこのチームに加わっているのは皆さんおなじみのタマちゃんこと江口たまみさん（元青瀬コミ主事）。助八古道の誕生前は西山地区コミと一緒に開発に参加された方です。



ご記憶の方も多いと思いますが、9月29日の区民運動会に飛び入りでゴッタンの飛び入りチームが4名で参



ゴッタン演奏会に20名の参加

## レキバナ座談会

第2回目の座談会が長浜地区コミで18日(日曜日)に開催されます。

第1回目の様子では飯島に眠っていて誰も気が付いていない歴史的な重要事項などを掘り起こしていこうというような内容かなという雰囲気でした。

下飯の中でも全く違う表現やよく似た意味の言葉があります。

第2回目は枠を広げて下飯以外の他地域ととの表現の違いに枠を広げての座談会になります。参加は自由ですができればコミ協を通じて申込んで頂ければと思います。(資料の関係等があまりして)18日は今のところ西山地区コミから4名の参加予定です。

## 飯島竜宮文化フェスタは

11月24日です

今年手打小学校が会場になります。西山郷土芸能保存会から参加のシアノノールが発表されるのは11時35分からの予定です。

抽選会の商品リストは、イセエビ1kg、カンパチ1尾、水イカ1kg、飯州・亀五郎セットなどとなっています。

## シリーズ20故郷を深く浅く探る―中村史傳

アボのトンコスからカイヤマチ見れば

### ―瀬々野浦の小さな地名考①―

瀬々野浦には地籍図にのる小字名(こあざ名)他にさらに細分化された地名がある。たとえば開田のタケヤマ・スギンネや小迫のハンノキなどがある。規模でいえば、個人宅くらいの呼称から四・五軒くらいのかたまりの範囲を示す地名である。ゴンゲンドウ・ムドウヤマ・ドウノエン

マイ・ゴカなどは多くの人を知っているように、中には限られた人しか使わず、多くの人に認知されていない地名も多いと思う。そのような地名の中で、歴史的な由緒をもつ地名が「カイヤマチ」である。飲み会の時に、安弘さんは興に乗って唄れる「へアボのトンコスからカイヤマチ見ればドッコイシヨ猫も走れば、瓦もふせて。

。。」という歌がある。歌詞はユーモアや諧謔(かいぎやく)も交えて作られる。今は草津節の節にのせて歌われるので「アボのトンコスからスイトジョーが落ちて嫁は喜ぶ、孫は泣くヨー」という歌詞は嫁と姑(しゅうとめ)のいさかいかも軽く歌い流されるが、メロディーが暗ければ深刻である。全部の歌詞はいつか安弘さんに教えてもらいたいが、今回の本題は「カイヤマチ」であるので、このカイヤマチを詮索したい。

カイヤマチは漢字では「仮屋町」であ

って仮屋(かりや)が訛ってカイヤになったと思われる。仮屋とは薩摩藩政時代に外城制(とじょうせい)が敷かれて藩内には最大一二〇もの外城がありその外城におかれた役所をいうのである。

いわゆる郷土が居住する麓(ふもと)におかれた役所で下飯では、旧下飯支所近くにかつての仮屋跡があったという説明の書かれた看板がある。

麓でもなかった瀬々野浦になぜ仮屋(カイヤ)を冠した地名があるということになるが、手打の仮屋を本庁とすれば瀬々野浦に出張所みたいな位置づけで置かれた役所があったのではないか。当時のシンヌーラ人はこの出張所をまでカイヤと呼んだのではないだろうか。

麓の郷土は(いわゆるダンナ)が出張って門(カド)農民であるシンヌーラの主だった者への指導伝達をしたり、あるいはシンヌーラの者ほぼ全員を集めてフウクウ(賦公・賦工)を言いわたりするのがこのカイヤの場であった。フークウを奉公の漢字を充てたりするが、奉公はその見返りの恩賞を伴うが、見返りのない賦役(ふえき)なので賦公・賦工とした。

―この稿長いので来月号へ続きます。ご期待ください。―